

健康で安全な施設・運営のための 「WELLヘルスセーフティ評価」

ユニバーサルデザイン研究部会 部会長 似内志朗

【第1時限】

ユニバーサルデザイン研究部会

新型コロナは高齢者や疾患のある者にとって特に危険。今年6月WELL認証を運営するIWBI
発表の評価法を、施設利用安全性の目安として紹介。

今日の講義

- ・ユニバーサルデザインとは何か（Wikipedia記述から）
- ・JFMAユニバーサルデザイン研究部会の活動
- ・ユニバーサルデザインの現在

- ・WELL（WELL Building Standard）：健康とウェルビーイングに配慮した建築の認証
- ・WELLヘルスセーフティ評価：感染症を含む施設利用安全性の目安に関する評価

ユニバーサルデザインとは何か

(Wikipedia記述から／2020.9に有志先生方と改定)

ユニバーサルデザイン (UD)とは、**文化・言語・国籍や年齢・性別・能力などの違いにかかわらず、出来るだけ多くの人**が**利用できる**ことを目指した**建築 (設備)・製品・情報などの設計 (デザイン)** のことであり、またそれを実現するための**プロセス (過程)** である。

- 1 概説
- 2 ユニバーサルデザインの7原則
- 3 ユニバーサルデザインの具体例
- 4 建築・住宅におけるユニバーサルデザイン
- 5 公共交通のユニバーサルデザイン
- 6 プロダクトとユニバーサルデザイン
- 7 **ワークプレイスのユニバーサルデザイン**
- 8 衣のユニバーサルデザイン
- 9 学校教育のユニバーサルデザイン
- 10 ユニバーサルデザインへの批判や誤解
- 11 ユニバーサルデザインに関連する概念や用語
 - 11.1 理論や手法
 - 11.2 関係する用語
 - 11.3 資格等
- 12 脚注
- 13 関連項目

ユニバーサルデザインという概念

米ノースカロライナ州立大学ユニバーサルデザインセンター (Center for Universal Design) の **ロナルド・メイス** (Ronald Mace 通称 Ron Mace) により、1985年に公式に提唱されたものである。

「年齢や能力、状況などにかかわらず、**デザインの最初から**、できるだけ多くの人が利用可能にすること」が基本コンセプトである。

デザイン対象を **障害者や高齢者に限定していない点** が「バリアフリー」とは異なる。

これは、バリアフリーが、さまざまな利用者を考慮せずにつくってしまい、結果として生じた障壁（バリア）を「後から除去する」という不合理を、「**最初から誰にとっても使いやすいデザインで**」解消するというロナルド・メイスの考えが反映されたものである。

欧米では、バリアフリーがかなり進んで後にユニバーサルデザインの考え方が提唱されたため、その違いは理解されやすかった。しかしながら、日本国内においては「バリアフリー」が不十分なうちに「ユニバーサルデザイン」の考えが紹介されたため、**両者はしばしば混同**されており、ロナルド・メイスの考え方が、必ずしも正しく理解されているとは言えない点もある。

なお、同様の概念として、ヨーロッパには **Design for All** という概念があり、英国からは、**Inclusive Design** も提唱された。現在、提唱されている **SDGs** 中の **"No one will be left behind"** (**誰も取り残さない**) も、考え方としては近い概念といえる。

ユニバーサルデザインの7原則

The Center for Universal Design, NC State University による7原則。

どんな人でも公平に使えること。（公平な利用）

Equitable use

使う上での柔軟性があること。（利用における柔軟性）

Flexibility in use

使い方が簡単で自明であること。（単純で直感的な利用）

Simple and intuitive

必要な情報がすぐに分かること。（認知できる情報）

Perceptible information

簡単なミスが危険につながらないこと。（うっかりミスの許容）

Tolerance for error

身体への過度な負担を必要としないこと。（少ない身体的な努力）

Low physical effort

利用の十分な大きさと空間が確保されていること。（接近や利用のためのサイズと空間）

Size and space for approach and use

ユニバーサルデザインの具体例

- ・誰もが余裕を持って通過することのできる幅の広い改札 →汎用化
- ・病院等の医療用施設向けに開発されたが、多くの人々が心地よいと感じたために普及したシャワートイレ →汎用化
- ・適切にデザインされた身体的負担の少ないスロープと階段の組み合わせ
状況に応じてエレベーターやエスカレーターとも組み合わせる →選択肢
- ・絵文字（ピクトグラム）による視覚的・直感的な情報伝達と音声や音響、触覚による情報伝達の組み合わせ →選択肢
- ・ユーザーが自由に選択できる、多様な入力および出力装置（キーボード、マウス、トラックパッド、ジェスチャー、音声など）とそれらの接続、使用ができるプラットフォームとしてのパソコンやスマホ等のハードとソフト →選択肢
- ・視認性やユーザーの感情に与える効果に配慮した配色計画 →感覚との整合
- ・複雑なマニュアルがなくても、直感的に使用できる製品のデザイン →感覚との整合
- ・読みやすさ、視認性を向上させる目的で開発したフォント →感覚との整合

また、世界のユニバーサルデザインの市場規模は、2020年現在で40兆円を超えている。

ワークプレイスのユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザインは主に不特定多数のユーザーが使う公共空間、プロダクト等が対象であったが、ワークプレイス（働く場）にも概念が拡大している。障がいのあるワーカーやシニアワーカーの就労機会の拡大、外国人ワーカーの増大、子育て中の女性や身内の介護に携わる人など、様々多様なワーカーが働くことを前提とすべき社会において、「誰でも働きやすい」ワークプレイスのユニバーサルデザインが必要とされている。

ワークプレイスのユニバーサルデザインには、建築空間のアクセシビリティやユーザビリティばかりではなく、家具・什器や情報機器などのエルゴノミクスの視点を含め、「働く」という行為を取り巻く総合的な「働きやすさ」が必要となる。また、「働きやすさ」というゴールを実現するためには、建築から機器に至るまでのハードウェアが使いやすだけでなく、多様なユーザーが「自分にとって最も快適で使いやすい環境を選択できる」というアプローチが有効であり、ワークプレイス全体で考えた場合のDesign for allとなる。例えばその時々の仕事の内容等により、オフィス空間の中で自分が最も働きやすい場所・環境を選択できるABW（Activity Based Working）は、全てのワーカーにとってメリットが大きい。

このABWの考え方を、在宅勤務、サードプレイスでの仕事などまで広げれば、ワーカーが自分の働き方を合理的かつ自律的に選択でき、「通勤」「オフィスでの勤務」といったストレスからも自由となる。また「働く」という点から見ると、プレイス（場）への配慮とともに、情報へのアクセス、人と人のコミュニケーションやコラボレーションにおけるスムーズさといったソフト面にも配慮が必要となる。これらも広い意味でワークプレイスのユニバーサルデザインといってよいものだ。

近年、快適でストレスの少ないウェルビーイングの高いワーク環境が、仕事の生産性・創造性向上に大きな効果があることが実証され、また、ワーカーの満足度向上、リクルーティングにおける優位性が期待されることから、企業等における関心も高まっている。

JFMAユニバーサルデザイン研究部会の活動

ミッション「オフィスのユニバーサルデザイン導入の価値を明らかにし、導入の道具立てをつくる」

調査研究報告書

- 2004.09 調査研究部会報告書vol.1 「オフィスのユニバーサルデザインに向けて」
- 2006.09 調査研究部会報告書vol.2 「オフィスのユニバーサルデザインUD評価」
- 2008.05 調査研究部会報告書vol.3 「オフィスのユニバーサルデザイン導入事例」
- 2009.04 調査研究部会報告書vol.4 「オフィスのUDを語る」
- 2014.07調査研究部会報告書vol. 5 「ダイバーシティの時代」

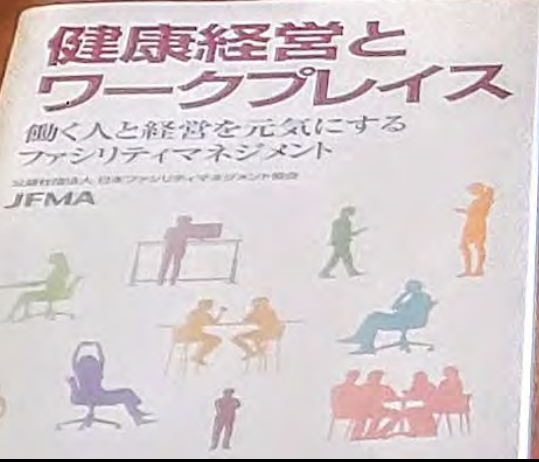
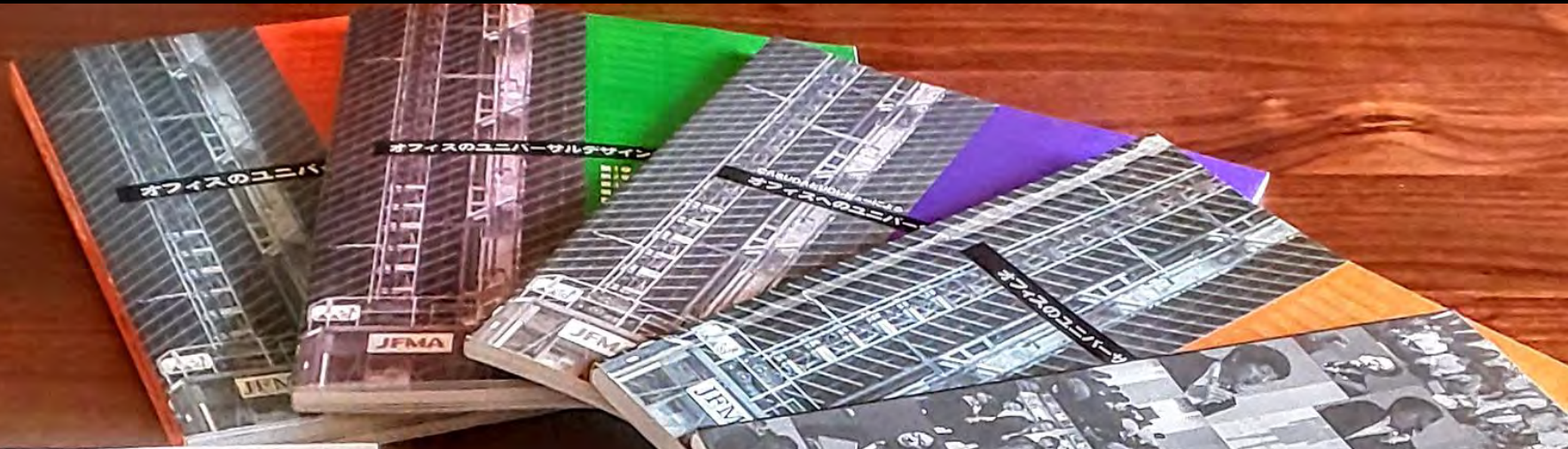
JFMAジャーナルR

- R1 変化するオフィスのユニバーサルデザイン Design for all からDesign for eachへ
- R2 ユニバーサルデザインはダイバーシティを寛容する大きな器
- R3 健康経営を生み出す場の力 経営・人・社会の視点から健康経営の構造を読み解く
- R4 人フォーカスの時代のユニバーサルデザイン 健康経営TFとの協働から気づかされたこと

活動

日本FMフォーラム、IFMA ワールドワークプレイス、IAUD国際ユニヴァーサルデザイン会議、日本建築学会大会、KFMA ソウル大学シンポジウム、自主主宰シンポジウムなど多数参加。

現在、メンバー約10名。ゆっくり活動しています。



UDナイトトーク ぜひご参加ください

9/23は終わりましたが、
年明け2月まで、月1回行います。
ZOOM参加でき、無料です。

当UD研究部会メンバー
森山政与志さんの渋いトークが
評判です。

ご希望の人は、私（似内）まで
[UDナイトトーク参加希望]と書いて
メールをください。

shiro.nitanai@gmail.com



UDナイトトーク @ZOOM

- 9月23日（水）21:00～22:30
トーク「馬鹿言ってるじゃねえ、まだ始まって
もいねえ」 with 成田一郎（JFMA）
- 10月21日（水）21:00～22:30
鼎談（対話形式）「どうしたら一人でも増や
せるのだろうか・・・？」 with 坂本崇博（コク
ヨ）、木原隆明（専門学校非常勤講師）、
仲田裕紀子（JFMA UD研究部会）
- 11月25日（水）21:00～22:30
トーク「輝ける未来は過去をも変える」
with 古阪幸代（WFM）
- 12月16日（水）21:00～22:30
鼎談「リモートワークを体験して」with 黒
木正郎（建築家）、松崎駿（一級建築
士）、児玉達朗（JFMA UD研究部会）
- 1月20日（水）21:00～22:30
トーク「今じゃ、笑える話さ」 with 星川安
之（共用品推進機構）
- 2月17日（水）21:00～22:30
鼎談「コロナ禍に生きる次世代と考える
UD」with 波多野弘和（一級建築士）、
石川由佳子（義肢装具士）、塩川完也
（JFMA UD研究部会）

JFMAユニバーサルデザイン研究部会
生活環境・企画設計工房 共催

左半身不随で一級建築士の森山政与志による連続夜話

ユニバーサルデザインの現在（私見）












- 日本でのユニバーサルデザインは、着実に進展してきた。
- 特にバリアフリー法（建築＋交通）により、ハード面は大きく改善された。
- 一方、ソフト面、特に障がい者・高齢者への日本人の無関心・手助け不足は、問題が大きい。
（街中での車いす利用者への手助け、優先席も譲らない、障がい者の外出が少ない）
- 障がい者差別解消法（日本版ADA法）の効果（主にサービス面）が浸透していない。
- 社会的包摂という面では、日本人の同質性、同調圧力がマイナス面に働くことが多い。
- 一方、ワークプレイスのユニバーサルデザインは進展してきた。
- 特にABW（Activity-based Working）は、個人が働く場所を選択できるという究極のUD。
- コロナ禍で在宅勤務の選択肢が拡大したことも、移動制約者にとってはメリット大。
- SDGsの基本的理念のひとつ“*No one will be left behind*”（誰も取り残さない）。
（社会的包摂が、世界的に「目指すべき姿」であることが共有されたという価値）



WELL health safety rating (WHSR)

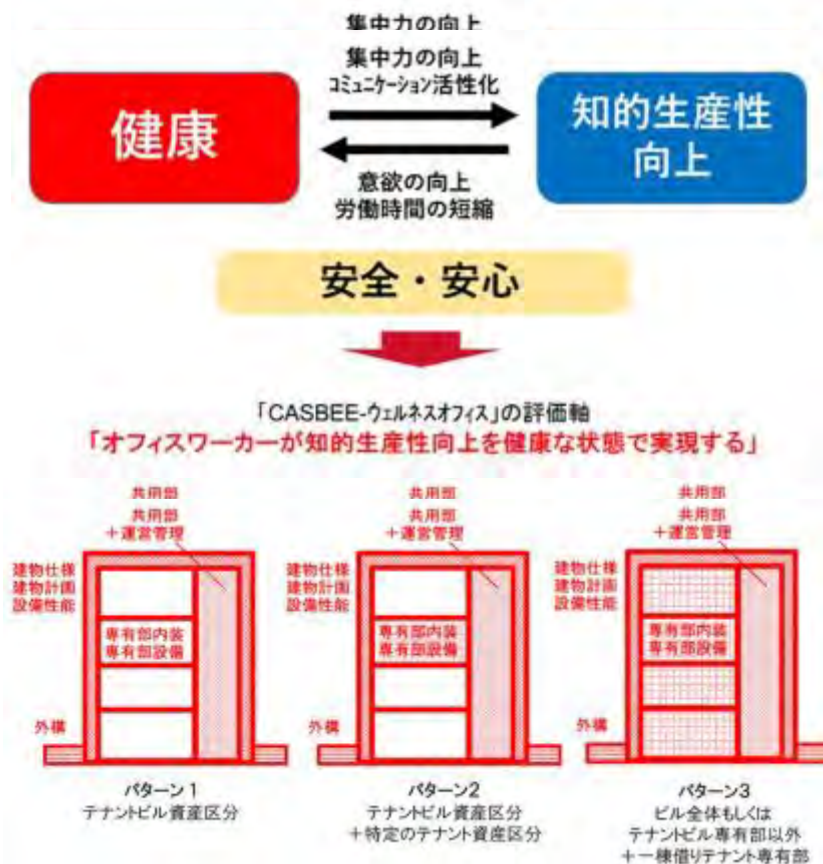
IWBIの世界水準の健康安全なビル評価

グリーンビルの主な評価指標

	日本	米国	欧州	その他国
環境総合 評価指標	<p>CASBEE 建築環境総合性能評価システム</p> 	<p>LEED (グローバル)</p>  <p>SITES (グローバル)</p>  <p>Arc (グローバル)</p> 	<p>BREEAM (英国・欧州)</p> 	<p>GreenMark (シンガポール)</p> <p>GreenStar (オーストラリア)</p>
エネルギー 性能指標	<p>BELS 建築物省エネ エネルギー性能表示制度</p> 	<p>Energy Star (米国内)</p> 	<p>The EU energy rating label</p> 	<p>NABERS (オーストラリア)</p> 
人中心の 建物指標	<p>CWO CASBEE Wellness Office</p> <p>2019.11に10件認証</p>	<p>WELL (グローバル)</p>  <p>INTERNATIONAL WELL BUILDING INSTITUTE™</p> <p>fitwell</p>		
不動産会 社・ファンド の評価			<p>GRESB (グローバル)</p>  <p>G R E S B®</p>	

参考：CASBEEウェルネスオフィス（IBEC）

- 健康、知的生産性、安全安心の3本柱。
- 国交省、建築環境・省エネルギー機構（IBEC）
- 2019.11に10物件認証。現在拡大中。
- WELLと類似点と相違点
 - 類似：目的、大方の構成
 - 相違：難易度、対象範囲、普及地域、項目、評価法等



Qw1 健康性・快適性

- 1空間・内装
- 2音環境
- 3光・視環境
- 4熱・空気環境
- 5リフレッシュ
- 6運動

Qw2 利便性

- 1移動空間・コミュニケーション
- 2情報通信

Qw3 安全・安心性

- 1災害対応
- 2有害物質対策
- 3水質安全性
- 4セキュリティ

Qw4 運営管理

- 1維持管理計画
- 2満足度調査
- 3災害時対応

Qw5 プログラム

- 1メンタルヘルス対策、医療サービス
- 2社内情報共有インフラ
- 3健康増進プログラム

不動産分野でのESG (GBJ資料)

LEED 開始10余年/ Leadership in Energy & Environmental Design

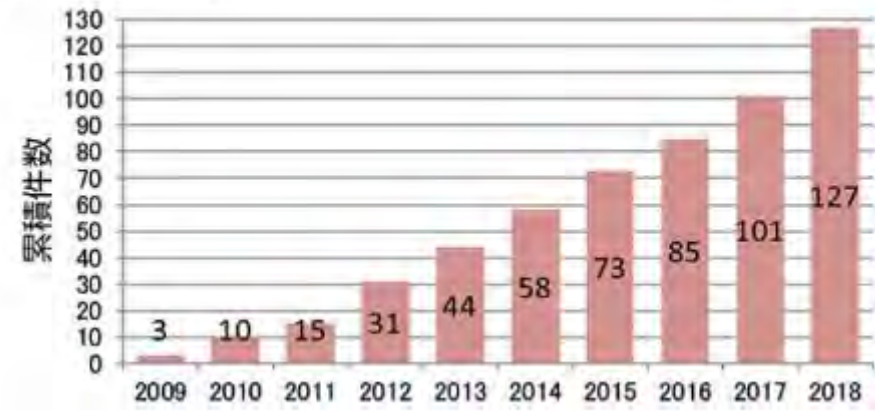
LEEDは世界で最も広く利用されているグリーンビルディング評価システムです。

2018年5月現在

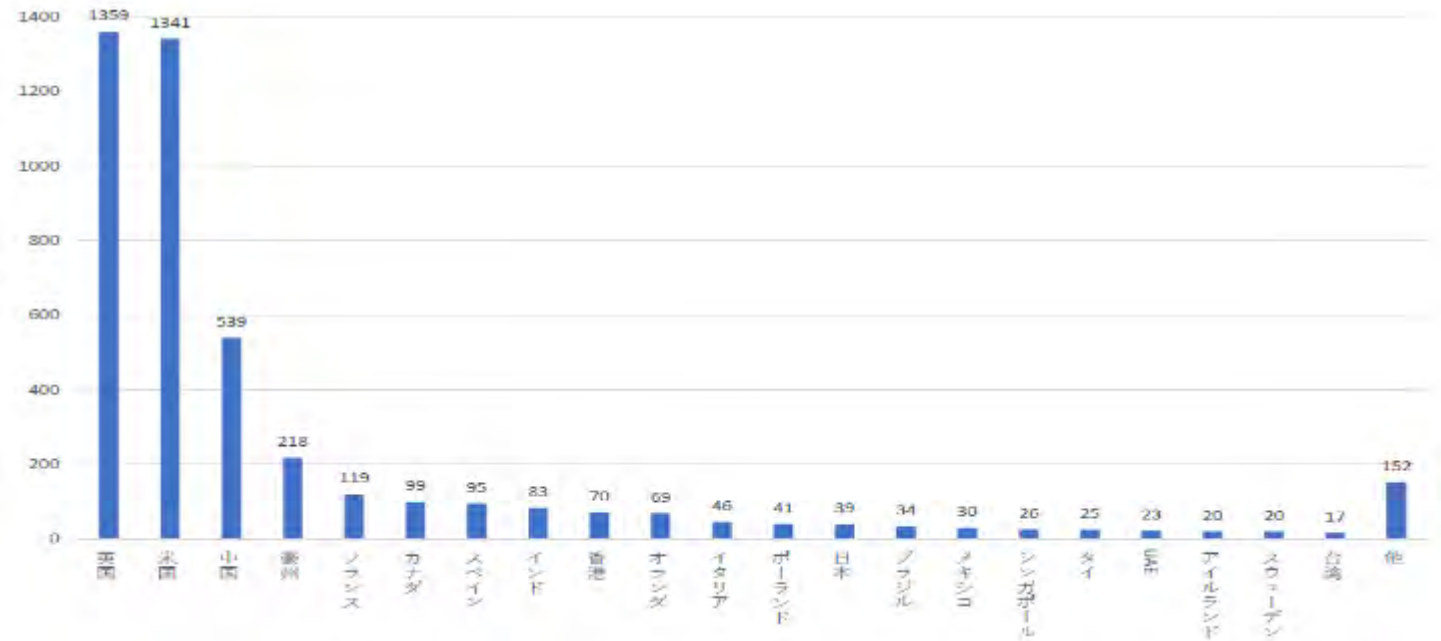
(件)					
アメリカ合衆国	58,483	トルコ	335	ポーランド	144
カナダ	3,821	ドイツ	299	台湾	132
中華人民共和国	1,343	スウェーデン	270	コロンビア	132
サウジアラビア	856	スペイン	262	韓国	127
インド	809	イタリア	211	日本	111
ブラジル	488	香港	183	その他	1,854
メキシコ	345	チリ	183		
アラブ首長国連邦	337	フィンランド	166	合計	70,891

日本国内での認証件数も年々増加しています。

2018年11月現在

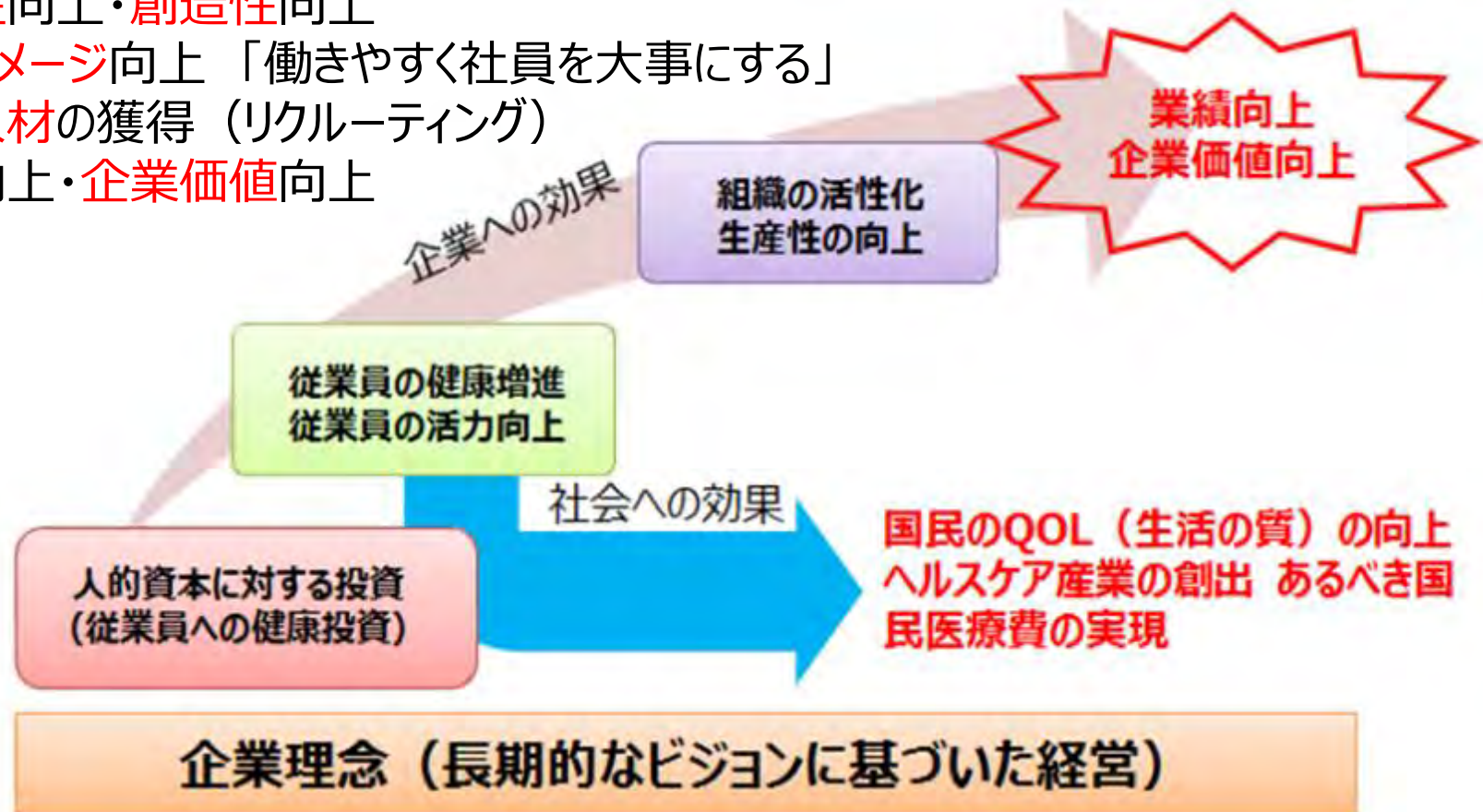


WELL 開始5年



注目される健康経営のメリット

- ・健康経営は「経営資源としての社員の健康」への投資による**経営貢献**が目的。
- ・**コスト**ではなく**投資**。
- ・**アブセンティズム**（疾病などによる欠勤）削減
- ・**プレゼンティズム**（健康問題による生産性低下）削減
- **医療費**企業負担削減
- **生産性**向上・**創造性**向上
- **企業イメージ**向上 「働きやすく社員を大事にする」
- **有能人材**の獲得（リクルーティング）
- **業績**向上・**企業価値**向上



WELL投資対効果 : CBRE LAオフィス

- **CBRE**ロサンゼルス・オフィスで、**WELL認証**取得のために従業員1人当たり約3,600米ドルの投資。従業員1人当たりのリターンは、1年目で3,000米ドル、2年目5,000米ドル、3年目6,000米ドル、移転後3年間合計14,000米ドルと試算。
(WELL BUILDING STANDARD (Delos Living_WELL™ Office ROI))

→投資対効果は約**3.6倍** (3年で)



WELL™ オフィスROIモデル



WELL認証は「人フォーカスの時代」の指標

背景（人が価値を生む時代）

- 人は生涯の90%を建築空間で過ごす。
- 人の知恵が利益の源泉の時代の今、**ワーカーの生産性・創造性向上が業績のカギ**。
- 人の生産性・創造性は、健康とウェルビーイングが大きな影響を持つことが実証。
- CBRE試算では「WELL認証の投資対効果3.6倍」など様々な傍証的エビデンスあり。
- **WELL認証**は、人の健康とウェルビーイングと建築環境に関する唯一のグローバル基準
- ESG投資時代における、**企業評価のモノサシ**のひとつと認知されてきている。
- 企業の運営コストの90%が人件費（ヒト）、10%がファシリティコスト（モノ）。



WELL Building Standard 認証制度

- ・世界で初めて、健康とウェルビーイング（Health & Wellbeing）に焦点を当てた建築・空間の評価システム
- ・米国の設計・コンサル会社“**Delos**”を中心として2008年頃から準備
- ・**IWBI**（International WELL Building Institute）に引き継がれた
- ・**2014年にVer.1として公開**
- ・2014年にLEEDと同様に、**GBCI（第3者認証機関）と契約**
- ・2018年5月31日に**Ver.2 PILOT**が発表。現在v.1と併用

WELL v2パイロット 10のコンセプト

各コンセプトには「必須項目」と「加点項目」があるのは同じ。
V1→V2になり「必須項目」は 41→23、「加点項目」は59→89





WHSR 概観

WELLヘルスセーフティ評価

1. IWBIからのメッセージ
2. WHSRの特徴
3. WHSR取得のメリット
4. WHSR取得の手順

IWBI (International WELL Building Institute)

- ・2020.6.30に、WELL Health-Safety Rating (WHSR)が発表された。
- ・コロナ禍を受けて急遽タスクフォースが設置され策定された。
- ・健康で安全な運営がなされている施設の「お墨付き」として、今後の普及が想定される。



INTERNATIONAL WELL BUILDING INSTITUTE

The organization that oversees the world's premier framework for advancing health in buildings and spaces of all kinds: the WELL Building Standard (WELL).

4,200+

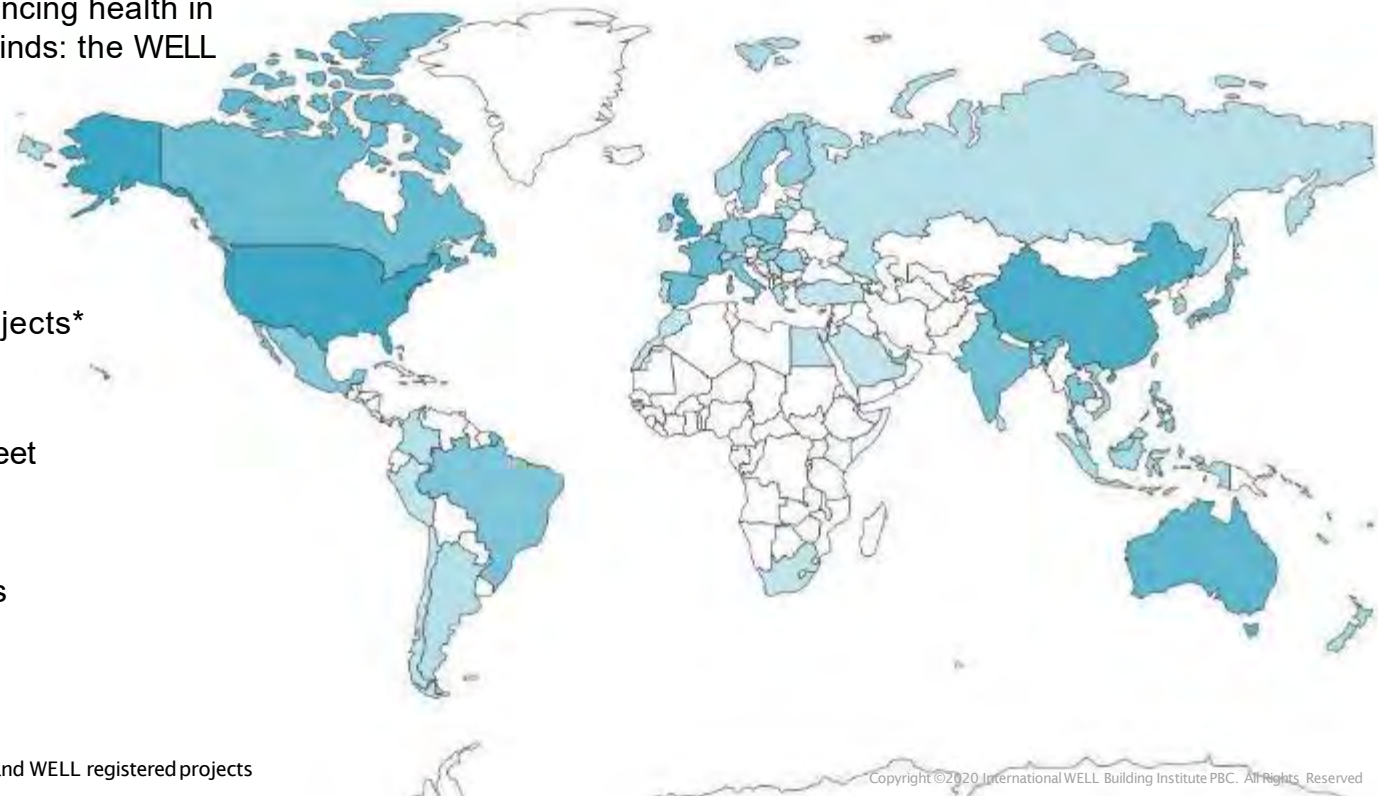
WELL projects*

550M+

Square Feet

62

Countries



*Includes WELL Certified, WELL Precertified and WELL registered projects

Copyright ©2020 International WELL Building Institute PBC. All Rights Reserved

- IWBIは、あらゆる種別の先進的な健康建築に取り組んできた。
- WELL認証は、既に62か国で4200プロジェクトが認証取得または登録段階。

IWBI HEALTH & WELLNESS PROGRAMS



WELL
CERTIFICATION



PROFESSIONAL
ACCREDITATION



MEMBERSHIP
PROGRAM



WELL
PORTFOLIO



WELL HEALTH-
SAFETY RATING

Copyright ©2020 International WELL Building Institute PBC. All Rights Reserved

・今回、IWBIの健康・ウェルネスのプログラムに、コロナ禍への対策ともなるWHSR (WELL health safety rating) が加わった。



The **WELL Health-Safety Rating** is an evidence-based, third-party verified rating focused on operational policies, maintenance protocols, emergency plans, and stakeholder education and engagement to address a post-COVID-19 environment now and broader health and safety-related issues into the future.



o
p
e
r
a
t
i
o
n
a
l

Adoption of policies and procedures to facilitate a healthy and safe workplace or facility.



P
o
l
i
c
y

Maintenance Protocols

Implementation of facilities management and maintenance protocols designed to reduce the risk of infectious disease transmission.



E
m
e
r
g
e
n
c
y

Emergency Plans

Development of emergency plans and protocols that, when applied, help to safeguard building users.



S
t
a
k
e
h
o
l
d
e
r

Stakeholder Education and Engagement

Regular communications, education and signage that capture important updates, activities and information.

Copyright ©2020 International WELL Building Institute PBC. All Rights Reserved

- WHSRは、運用方法、保守手順、緊急時計画、利害関係者の啓発・関与に重点。
- エビデンスに基づく、第三者検証による評価方法。
- 目の前のポストコロナ環境、将来的な健康と安全に関する幅広い問題について記述。

Why this rating matters **now**

Created in response to the COVID-19 pandemic and consisting of operational interventions that can be made to help mitigate its spread, including the five key themes covered in the rating:

- Cleaning and Sanitization Procedures
- Emergency Preparedness Programs
- Health Service Resources
- Air and Water Quality Management
- Stakeholder Engagement and Communication

Copyright ©2020 International WELL Building Institute PBC. All Rights Reserved

・コロナ禍の拡散を防ぐための5つの主要テーマ

- ①洗淨および消毒の方法、②緊急事態準備プログラム、③保健サービスのリソース
- ④大気および水質管理、⑤利害関係者の関与とコミュニケーション

WELL HEALTH-SAFETY RATING: REOPEN WITH CONFIDENCE



FLEXIBLE: Applicable for large and small organizations alike across all facility types.

- Users can pursue the strategies that reflect
- their specific needs and goals, with the option to adjust their approach at each annual renewal.



- **VERIFIED**: Anchored in third-party document review and annual verification of policies, protocols and strategies through Green Business Certification Inc. (GBCI), instilling confidence in an organization's stakeholders.



SCALABLE: Provides a framework for helping organizations to efficiently develop, implement and validate health and safety protocols and plans across multiple properties with streamlined documentation pathways and scalable pricing.



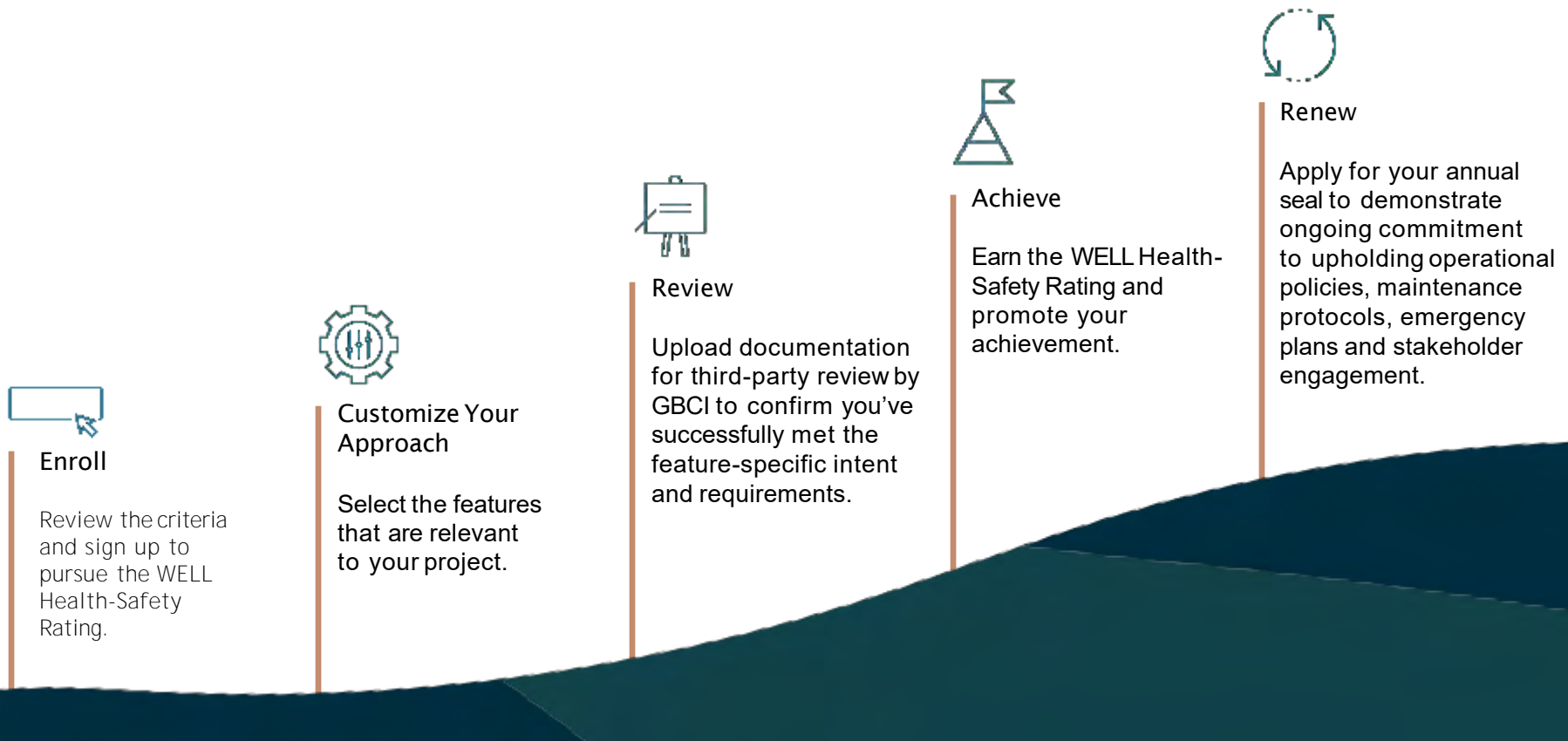
ACCESSIBLE: Priced for accessibility, with a focus on interventions that require little to no capital expenditure.

Copyright ©2020 International WELL Building Institute PBC. All Rights Reserved

- WHSRの特徴 自信をもって施設利用再開をするために
フレキシブル（組織規模、施設内容に関わらず対応可能）
審査（GBCIによる第3者審査（書類審査、毎年の確認））
拡張可能性（効率的に複数施設を対象にできる）
導入しやすい価格設定

出典：IWBIホームページ（公開資料）

YOUR WELL HEALTH-SAFETY JOURNEY



・WHSRのプロセス

登録 → プロジェクトに適用 → GBCI審査 → 評価を取得 → 毎年更新

APPLICABLE FOR ANY FACILITY TYPE



Sports &
Entertainment



Movie Theaters



Hotels & Resorts



Restaurants



Offices



Education



Retail



Multifamily



Industrial

and more.....

Copyright ©2020 International WELL Building Institute PBC. All Rights Reserved

•どんな施設にも適用可能

スポーツ・エンタメ施設、映画館、ホテル・リゾート施設、レストラン、オフィス、教育施設
商業施設、集合住宅、生産施設・・・

出典：IWBIホームページ（公開資料）

LOOK FOR THE SEAL



Communicate to Build Confidence

The WELL Health-Safety seal can be placed on every space that has earned the rating as a visual mark to indicate the work an organization has done to apply measures mapped to scientific evidence that help to support the health of individuals in a post-COVID-19 world.



- ・WHSRシールは、評価取得の施設のどこでも貼ることができる。
- ・ポストコロナの分かりやすいマークであり、人間の健康と安全性のための科学的根拠のある対策を行った組織/施設であることをアピールできる。

WSHRの特徴（かみ砕いて言うと）

・あらゆる施設が対象

- ・スポーツ・エンタメ施設、映画館、ホテル・リゾート施設、レストラン、オフィス、教育施設、商業施設、集合住宅、生産施設など。

・国際的に通用する「安全で健康な施設」の評価

- ・世界60か国以上でWELL認証を展開するIWBIによる評価手法。

・エビデンスベースかつ第3者評価

- ・600人近くの医療・衛生・建築・設備などの専門家によりつくり、GBCIによる厳正な評価。

・建物のハードよりも運用方法を主として評価

- ・建物の大幅な改修等を要する場合は少なく、運用方法の改善で達成可能。

・22項目＋イノベーション4項目（最大3）のうち15項目以上が必要

- ・世界60か国以上でWELL認証を展開するIWBIによる評価手法。

・WELLと比較すると、シンプルで安価な設定

- ・IWBI登録料\$4200（WELL認証と同時ならば無料）。コンサルフィー除く。

WSHR取得のメリット（かみ砕いて言うと）

ポストコロナの分かりやすい国際水準のマークであり、人間の健康と安全性のための科学的根拠のある対策を行った組織/施設であることをアピールできる。



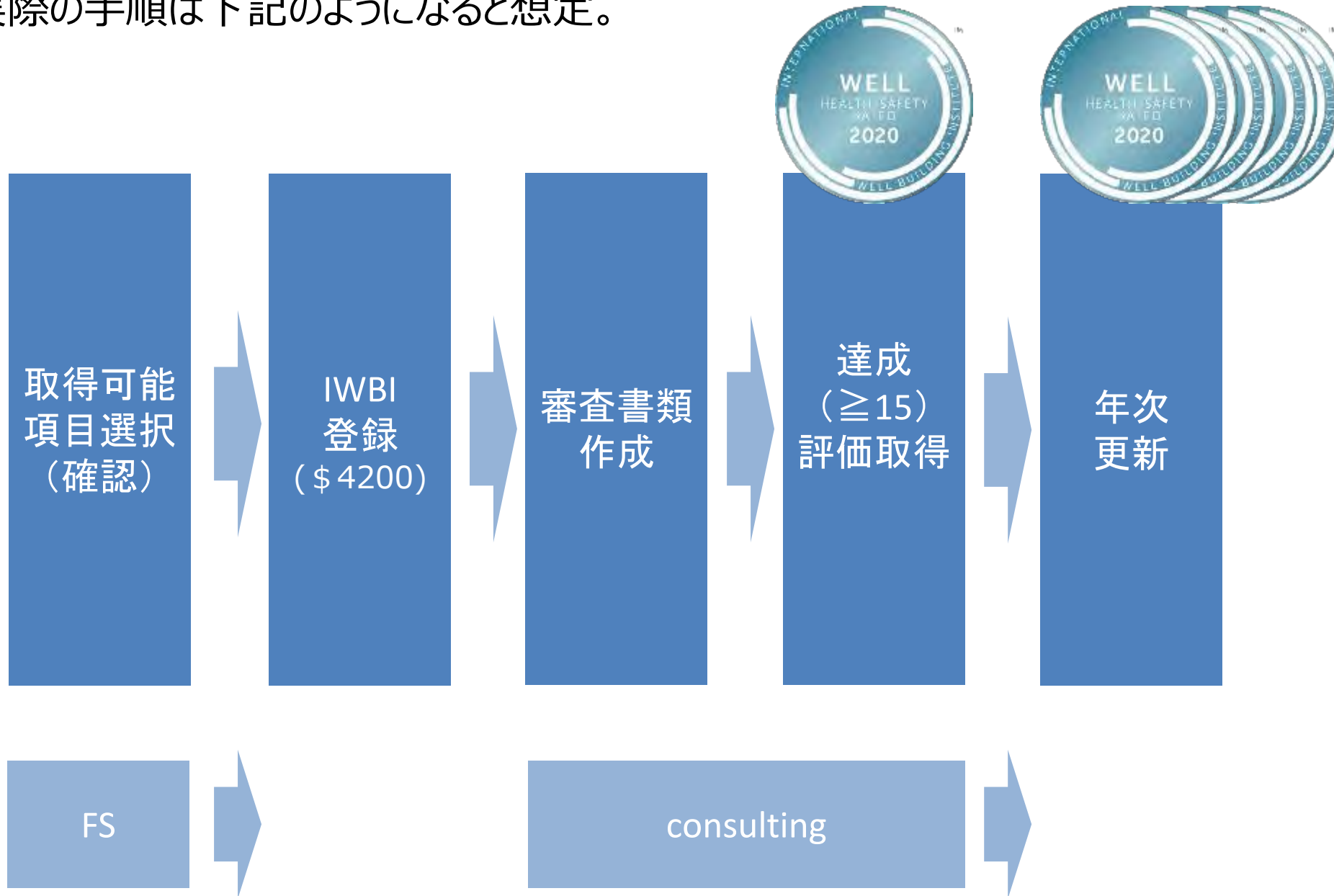
WSHRの審査項目

22項目＋イノベーション4項目（最大3ポイント）のうち、15項目以上が必要。

洗浄および消毒の方法	1. 手洗いのサポート	4. 望ましいクリーニング製品の選択
	2. 表面接触の削減	5. 呼吸飛沫への曝露を減らす
	3. 洗浄方法の改善	
緊急事態準備プログラム	1. 緊急時準備計画の策定	3. 緊急時に必要なものの提供
	2. 事業継続計画の作成	4. 緊急時レジリエンスの強化
	5. 健康を配慮した建物利用再開計画	
保健サービスのリソース	1. 病気休暇の提供	3. インフルエンザワクチン接種の推進
	2. 保健サービスの提供	4. 禁煙環境の推進
	5. メンタルヘルスの回復支援	
大気および水質管理	1. 換気のアセスメント	3. 空気と水質のモニタリング
	2. 空気処理システムの評価と維持	4. カビと湿気の管理
	5. レジオネラ管理計画の策定	
利害関係者の関与とコミ	1. 健康とウェルネスの促進	2. 食品検査情報の共有
イノベーション（最大3点）	1. 特に優れた取り組み	3. WELL指定項目の1つを満たす
	2. WELL AP資格者	4. WELL認証取得

WSHR取得の手順

実際の手順は下記のようにになると想定。



WSHR取得の審査

・審査内容の特徴

- ・21項目（+ innovation 3）のうち15項目以上を選択、審査文書を作成
- ・ハードに関する項目は少なく（禁煙など）、運用に掛かる項目がほとんど。

・審査方法の特徴

- ・文書審査のみ（現地審査はなし）
- ・統一要件をガイドライン化すれば、複数プロジェクトの審査書類共有可能。

・提出書類の種別

表1 文書化のスケール

WELL v2 verification method	Scale	Subject to audit?
Owner LOA	Shareable 共有ファイルとして提出可能	No
Policy and/or Operations Schedule		
On-going Maintenance Report	Shareable (Guidelines) ガイドライン化して共有提出可能	Yes
On-site Photographs		
Professional Narrative		
Technical Document		
On-going Data Report	Individual- scale 単体 Proj 用ファイルを提出	No

LEED Safety First pilot credits

LEED Safety First pilot credits

The Safety First: Cleaning and Disinfecting Your Space credit

グリーン清掃基準に則ったポリシー策定、実施し、室内環境とワーカーの安全を守る

- The Safety First: Re-enter Your Workspace credit
再入居の判断と計画、再入居後の進捗計測
- The Safety First: Building Water System Recommissioning credit
ビル運営に関わるチームが在館者が滞留水に接触することでのリスクを低減する
- The Safety First: Managing Indoor Air Quality During COVID-19 credit
現行の室内空気質管理を改善、強化する
- The Safety First: Pandemic Planning credit
シティーやコミュニティが感染症の広がりに備え、コントロールし、人々へのリスク低減を助ける
- The Safety First: Social Equity in Pandemic Planning credit
感染症予防、計画、対応など全ての局面で、公平性確保をシステムティックに確認

Arc Re-Entry

Tools and analytics for a safe, confident re-entry

As businesses around the world start to **re-enter the workplace** in the wake of the global COVID-19 pandemic, Arc has created a set of resources to **assist owners and facility managers** with **re-entering their buildings and facilities**.

Arc Re-Entry is a set of tools that can be used:

- To document and benchmark infection-control policies and procedures
- To collect and analyze related occupant experiences
- To measure and track indoor air quality

As a stepping stone for the LEED Safety First pilot credits and the WELL Health-Safety Rating





ありがとうございました。

ご質問などは

shiro.nitanai@gmail.com

までご連絡なくいただければと思います。